

2018年度 学校評価報告書(学校自己評価)

学校自己評価(4段階評価)

A:達成度が高い

B:概ね達成している

C:課題を残している

D:速やかな改善が必要である

学校経営計画			学校自己評価			
項目	目標	取り組み・実施計画 (具体的に記入してください。)	評価	評価の理由	課題及び改善	
①教育改善	教職員の研修の充実	魅力ある学校を目指して、教育内容の充実と教職員の資質向上をはかる。	B	勉強会を開催することができた。また、外部講師を招き、ICT・SDGs・LGBT・授業学の研修会を開催した。また、IBに関して校内で研修会を開き、全校体制で取り組んだ。教員の視野を広げ、日々の教育活動へ活かすことができた。	継続的に研修を実施することで、一過性のものにならないようにする必要がある。	
	教育改善	従来の学力観から脱却し、これからの社会で求められる学力を育む授業とその評価法の確立を目指す。	B	MYPの授業実践を行い、評価を返すことができた。	生徒の概念獲得や概念理解につながる授業の更なる展開を目指す。	
②教科指導	学習計画・学習内容	将来の社会で活躍する為に必要なスキルを身につけられる学習法を構築し実践する。また、これに必要な評価法を創り上げる。	B	実践は安定してきたが、評価については不十分。国際バカロレアMYPは候補校になり、IB委員会ができた。探究教育についても、探究教育シラバスは稼働している。新しい育英西の教育に合致していない。	教務部・進路指導部・IB委員会・探究教育科・情報科が教育の構築に向けて連携する必要がある。	
	学習内容の精選	教員用教務シラバスを使い、PDCAサイクルで学習内容の改善を行う。	D	シラバスに「身につけたい力」「到達度」「ふりかえり」「引継ぎ」の項目を追加し、PDCAサイクルの構築をすすめる。	シラバスの項目を一から見直す必要がある。	
	評価・指導方法の工夫・改善	各コースの目標に合わせ、生徒の意識を高める評価法をつくる。	C	IBの評価方法から情報科やSDIに評価方法が波及している。また、一部の科目(教員)に留まっている。	全教員がテストの点数だけの評価から、ルーブリックを用いた評価に移行する必要がある。	
	スキルの育成(NEW)	① 社会で必要とされるスキルを身につけさせる。	D	授業計画(シラバス)から評価までの一覧の流れの相互検証が深くできなかった。	どのように先生方に考える機会を持っていたかが課題として残った。	
	教務全般(NEW)	② 生徒・保護者・塾から信頼される学校へ	D	授業や考査、成績処理においてミスが多発し、多方面に迷惑をかけた。学校の基盤となる教務部の活動が、保護者・生身だしなみの崩れが少なくなっている。落ち着いて登下校することができているが、挨拶指導には課題が残る。	教員の意識を高める方が必要。	
③生徒指導	組織的な生徒指導	年間計画に則して、生徒指導部員を中心に全教員で生徒指導を行う。	B	毎日の登校指導。学期ごとの服装・頭髪指導。日々の身だしなみ指導と挨拶指導。	挨拶指導の徹底。SNSトラブル防止の指導。	
	生徒会・各種委員会活動の活性化	中高の生徒会・各種委員会の交流を深め、組織の充実を図る。行事を通して、生徒の自主性や積極性を育てる。	C	各種委員会。各行事で実行委員会を発足させ、主体的に行事運営をさせる。	8つの委員会の精査を行い、委員会活動の活性化を図る。	
	クラブ活動活性化	クラブ加入率を上げて活性化を図る。	B	部活動紹介。クラブ体験会。体育祭・文化祭で活動状況報告。	中学生の活動の活性化。中高一貫校として、部活動でも6年間の流れの中で指導を進める。	
	学級活動・学級経営	なかまづくりを進める。協働学習や学校行事などを通して、他者を思いやり尊重する心を育む。絆のつながりを育てる。	B	新入生対象オリエンテーション合宿。中学生対象コミュニケーションワーク。教科や行事でクラスの絆をこえた活動を毎週水曜日にSC常駐。二面談の実施。精神科医による教育相談を年4回実施。中学CWを実施。	リーダーの育成。	
	教育相談・生徒理解及び指導	教員一人ひとりがカウンセラーであることを自覚し、実践する。学年主任を中心とした教育相談の体制づくり。	B	生徒指導部を中心に情報共有。必要に応じて関係委員会など、学年・分掌をこえた体制で指導に臨む。	職員研修のさらなる充実。	
	問題行動に対する指導	問題事を起こさせない事前の積極的な指導。学校全体で共通した方針で一貫した指導を行う。	B	三者面談での情報共有。必要に応じて家庭訪問を実施。	学年と生徒指導部間の連絡体制の徹底。	
	家庭との連携	家庭との協力体制を構築する。	B	LINE株式会社より講師を招き、携帯教室の実施。関係諸機関との情報共有も実施。	交通安全教室・防犯教室の開催。	
	関係諸機関との連携	関係諸機関との連絡を密に行う。	B	LINE株式会社より講師を招き、携帯教室の実施。関係諸機関との情報共有も実施。	交通安全教室・防犯教室の開催。	
	④人権教育	人権教育指導計画の立案	教職員がみずから人権についての認識を深め実践する。あらゆる差別の撤廃に取り組むことの出来る集団を育てる。	B	6年間の人権教育を視野に入れた年間の人権HR計画の立案、実施。	系統立てた年間計画の作成。
	学習内容の精選	LHRでの人権学習の計画指導を充実させ、教育活動を通しての人権教育を推進する。人権尊重の意識を育て、差別や不正義を許し合いを支え合う学級集団作りを通して、生徒の生きる力を育む。	B	学年・学級での人権教育活動の充実。	事前・事後指導の充実。	
指導方法の工夫改善		B	校外での研究会での情報共有。	校外研修への積極的な参加。		
⑤特別支援	組織的な特別支援教育の体制作り	発達障害を含む障害のある生徒や、心因性疾患等により、日常の学習活動が困難な生徒の自立社会参加に向けた主体的な取り組み。	B	SCIによる職員研修会の実施。特別支援委員会の開催。	関係機関・家庭との連携。	
	⑥安全管理	学校安全・防災計画の立案	学期ごとの安全点検。年2回の防災訓練。	B	日々の清掃活動時に安全点検の目を持つことへの意識付け。防災訓練では、落ち着いて行動することができ、学校安全計画が生徒・保護者への発信が不十分である。	様々な状況での防災訓練の実施が必要である。
⑦保健管理	心のケアや健康相談体制の整備	本校独自の健康相談体制の確立を図る。生徒一人ひとりの心の問題を把握し、配慮が必要な生徒に対応する。	B	毎週水曜日にSC常駐。二面談の実施。精神科医による教育相談を年4回実施。	面談シートの改善。職員研修の実施。	
	健康観察・健康管理能力の育成	健康診断・体力測定を実施し、生徒の自己の状態を把握させ、活用させる。	B	健康診断・体力測定の実施。文化祭での献血協力。	一年を通しての健康指導の実施。体力向上を目指した保健体育科との協力。	
	関係機関との連携	保健に関わる関係機関との連携を図る。	A	学校医との連絡体制の構築。	職員研修の実施。	
⑧進路指導	組織的な進路指導	進路実績の向上を図る。自己の進路について主体的に考えられる生徒を育てる。	B	学年の進路指導部員が生徒の状況把握を行い、生徒の可能性を広げる指導を行う。大学入試を意識した補習の実施。基礎学力保護者に進路状況等を定期的に報告。生徒への適切な進路指導。	学年ごとに指導方法に差異が見られる。全体の問題として方向性を共有したい。	
	家庭との連携	保護者との連携を図り、生徒の進路目標の実現を図る。	B	高2特設コースに置いて外部講師による講習会。進路シラバスを生徒を通じて配布した。高1・2・3年、中学1・3年に対して進路説明会を実施した。	新入試に対する情報提供が不足している。	
	指導方法の工夫	研究会への積極的な参加	B	受験指導、進路指導、進路環境を学ぶ校外研修への参加。進路に関わる動向を教員間で共有する。教員対象の研修会の実施。高大連携事業の推進。高進協・ベネッセなどの連携。	引き続き、新制度入試の情報を収集する。模試分析等を教科、全体で共有し指導方法を研究する。	
	関係機関との連携	関係諸機関と連携を図り、進路保障の実現を図る。	A	高1特設では関西大学学長の講演会を実施し、秋に関西大学を実際に訪問した。	高2特設コースへの高大連携企画の立案(京都女子大・同志社女子大等) 国立大学の見学会を企画・実行	
⑨生徒募集	受験生・入学生数の確保	・出願者数の増加及び定員充足率100% ・定員管理	C	・塾、中学校を訪問し、最新の取組や実績を伝えるなど広報活動を行う。 ・内部生の数を考慮し、定員に沿った募集を行う。 ・入試関連行事運営に伴う生徒達による実行委員会を発足。 ・HPやfacebookの更新。ニュースリリース。	・中学・高校共に出願者数の増加→A ・中学入学者数85名となり定員管理に課題→C ・高校立命館・特立が定員を満たしていない→C ・生徒実行委員会の活動により、生徒主体の入試説明会が実施できた。→A ・HPの更新など顔面を上げる必要がある。→C	
	⑩学校広報	効果的な広報活動	B	・他校にない育英西ならではの魅力を伝える。 ・常に最新情報の発信 メディアやさまざまな媒体への積極的な情報発信。	・生徒実行委員会の更なる体系化 ・他分掌を含め学校全体でのHP更新、情報の発信が必要 生徒タブレットPCを利用した情報提供 生徒が主体となって情報を発信	
⑪家庭地域との連携	学校情報の発信	メディアやさまざまな媒体への積極的な情報発信。	C	HPのアップが遅くなった。もっとしっかり管理するべきだった。	行事の目的などをしっかり伝える必要がある。	
	行事授業等の公開	学校行事や授業を保護者や場合によっては地域への公開を行う。	A	事前に様々な行事等の案内ができ、より多くの人に学校の取り組みを知ってもらうことができた。	土曜開催のおかけか、授業参観の参加者は増加した。	
	育英会との連携	保護者との連携を密にして学校への理解を深めてもらう。	B	保護者の学校への関心度が高く、協力的である。		
⑫組織運営	学校経営計画	年度当初に教育理念・学校経営方針について提示し、教職員相互に共通理解をはかる。	B	学園の経営状況を把握し、課題解決に向けて一丸となって取り組む。教育活動に効果的に生かす。若手とベテラン教員の連携を運営委員会の充実と、部長会により分掌長同士の連携を密に行う。	職員会議、運営委員会、教科主任会議等で具体的に取り組みの進捗状況の確認と報告を丁寧に行い、より共通理解をはかる場を持つ。また教育継続して行う。	
	分掌間の連携	分掌間の横の繋がりを強化する。	A			
	教職員間の連携強化	教職員の連携を強化。	B	週に1回の教科主任会を実施することが出来た。縦の学年間での連携を充実させる必要がある。	継続して行うと共に、中学高校が連携したコース別会議で、より連携を密にする。	
	教職員研修会の実施	教員一人ひとりの資質向上をはかる。	A	分掌企画の研修会への参加、学校改革に必要な研修への参加。バカロレアに関する研修参加と各教科の教科指導の内容(ユニットプラン)の管理が出来ていないケースは年度当初はあったが、教室施設の管理は概ね出来た。	継続して行う。研修参加の報告会を実施し情報を共有する。中学はMYPの授業実践の充実、高校はグローバルの取り組みを進めていく	
⑬施設設備	施設の管理	教室等の施設、火元確認、整理整頓、備品管理、美化に努める。	A	各室の管理責任者との確認と、生徒への指導を促す。教職員・生徒の省エネに対する意識を高める。	日々の報告と注意喚起。生徒の視点での取り組みとして、各分掌から具体的な活動を発信を継続する。	
	学校に関する情報提供	学校評価(学校自己評価・学校関係者評価等)の結果を公表する。	A	学校評価に関して、保護者には文章とHPにて公表する。	教育改善委員会の管轄として、授業アンケートと学校関係者評価を実施し、その分析結果を保護者・生徒・HPで公表する。また、学校からの情報発信を積極的に確認し、最終的管理職のチェックを計画的かつ迅速におこなう。様式の変更などの具体的な対応を実施する。	
	文書管理徹底	学校関係書類の情報開示にむけて、文書管理を徹底する。	B	教務を中心に確認し、職員会議において情報共有を行った。管理職のチェックでは随分改善された。		